

# 技術・家庭科学習指導案

日 時 平成18年11月15日(水曜日)5校時  
学 級 1年5組(男17名 女17名 計34名)  
授業場所 木工室  
授業者 小 岩 智 和

- 1 題材名 身のまわりで役立つものをつくろう  
～簡単な木製品の設計と製作～(材料を切断しよう)

## 2 題材について

### (1) 教材観

技術・家庭科の目標を達成するには、実践的・体験的な学習活動を通して行うことが効果的である。本題材は加工学習を通して、技術分野の内容「A 技術とものづくり」における指導項目(1)生活や産業の中での技術の役割、(2)製作品の設計、(3)工具や機器の使用方法及びそれらによる加工技術、を学ばせ定着させることを目的としている。また木材という材料は、小学校段階までにほとんどの生徒が木材を使った作品づくりを経験しており、さらに手工具により比較的安安全かつ手軽に加工できることなどからも、取り組みやすいものであると考える。

今回の授業では、部品加工のスタートである、材料の切断(のこぎり引き)を取り上げる。部品加工では、工具の仕組みを効果的に活用すること、正確に材料を加工することが大切であり、そのためには姿勢や、目の位置などの作業動作が重要となる。生徒に正しい技能と知識を身につけさせ、それを自らの作品へ返していくことが、生活をよりよいものへと工夫、創造する態度の育成へもつなげていくことのできる題材であると考え。

### (2) 生徒観

製作についてどのようなイメージをもっているか調査したところ、34人中半数を超える20人の生徒が「苦手だ」「自分は不器用だから自信がない」といったネガティブな考えをもっていることがわかった。ただ、前期に履修した家庭分野での実習には、どの生徒も一生懸命にねばり強く作業に取り組んでおり、技術分野に入ってから材料の性質など、初めての専門的で多少難しい内容にもまじめに取り組むなど、学習に対する姿勢は良好である。

「のこぎり引き」には、ほぼ全員の生徒が「やったことがある」と解答しているものの、経験の度合いには大きく差があり、正しい技能は十分に身に付いていないことが予想される。

今回の学習は道具を使用した本格的な加工学習のスタートでもあり、できることなら良い作品へと仕上げていきたいと考えている生徒は多い。

### (3) 指導観

今回の授業は、生徒に「のこぎり引き」の正しい技能を身につけさせることが目的である。はじめに工具の仕組みや正しい作業動作について、生徒自身に考えさせ、声に出して確認することで十分に印象づけ、より深い内容の理解を図りたい。さらに反復練習を行うことで、その技能が生徒自身のものとなるような展開を心がけたい。

けがき線通りに材料を正確に切断することは、その後の作品の出来を大きく左右するものである。前半に技術分野を履修した生徒の様子を見ても、切断をうまくできなかった生徒ほど、挫折感や修正の手間から、意欲の減退を招いていた。また今回のような加工学習であれば、自分のつくった作品を実際の生活の場面に役立てることが技術・家庭科の目標へ迫る一歩でもあると考える。せっかくの作品が出来ず、当然愛着ももてず、その後もせっかく身につけて知識や技能を生かそうという考えは生まれてこないであろう。この段階で「うまくできた」「これならやれそうだ」という満足感や達成感を味わわせることは、その後の作業や学習への意欲づけにもつながると考える。

### 3 題材の指導目標及び評価計画

#### (1) 題材の指導目標

両刃のこぎりの仕組みや、正しいのこぎり引きの方法について考えることができる。

【生活を工夫し創造する能力】

両刃のこぎりの仕組みや、正しいのこぎり引きの方法について理解し、説明できる。

【知識・理解】

けがき線通り、正確に切断できる。

【生活の技能】

#### (2) 指導計画と評価計画

指導内容	時数	関	創	技	知
材料を切断しよう	5				
1, 両刃のこぎりの仕組みと、正しい使い方	2(本時2/2)				
2, 材料の切断	3				

### 4 本時の指導

#### (1) 本時の目標

- ・正しいのこぎり引きの方法について考えることができる。【生活を工夫し創造する能力】
- ・正しいのこぎり引きの方法がわかる。【知識・理解】
- ・けがき線通り、切断できる。【生活の技能】

#### (2) 本時の評価規準

評価の観点	評価規準	具体的評価規準		C 努力を要する生徒への指導の手だて	評価場面(方法)
		A 十分満足できる	B 概ね満足できる		
生活を工夫し創造する能力	正しいのこぎり引きの方法についてポイントを絞って考え、発表できる。	正しいのこぎり引きの方法について、全てのポイントに気づき発表できる。	いくつかのポイントに気づき、発表できる。	注目すべき視点を示す。	活動状況の観察
生活の技能	ポイントを踏まえて、正確にのこぎり引きを行うことができる。	ポイントを踏まえて正確にのこぎり引きを行うことができる。	ポイントを踏まえてのこぎり引きを行うことができる。	実際に作業をして見せる。また、繰り返し練習させ、技能を定着させる。	活動状況の観察
知識・理解	のこぎり引きの方法についてポイントを説明できる。	全てのポイントを説明できる。	力の入れ方、姿勢について説明できる。	教科書、ハンドブックで確認させる。	活動状況の観察

( 3 ) 研究内容との関わり

ア 本時の基礎・基本

- ・力の入れ方(のこぎりを引くときに力を入れる)
- ・姿勢(けがき線に対して正面に構え、けがき線・のこ身の真上に目線を落とす)
- ・切り始めと、切り終わり

イ 定着を図る指導の工夫

- ・のこぎり引きのポイントについて、声に出して確認し学習内容を印象づける。
- ・のこぎり引きを反復練習することで、確実な技能の定着を図る。

ウ 動機付けの工夫

- ・前時に行った作業体験を想起させることで本時に積極的に臨もうという意欲を喚起させる。

( 4 ) 展開

段階	学習内容・学習活動	指導及び支援の手だて 指導の留意点 支援	評価の視点 具体的評価規準(評価方法)	研究内容との 関わり
導入  5分	1, あいさつ  2, 課題把握 ・前時の作業の中で浮かび上がったのこぎり引きの問題点について確認し、本時の学習課題をつかむ。	前時の様子を納めたVTRを見せることで、想起を促す。		動機付けの工夫
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">                     けがき線にそってまっすぐに切断しよう                 </div>				
展開	3, けがき線通りに切断するにはどうしたらよいか考える。 ・VTRから、のこぎり引きの際の姿勢や目の位置などのポイントを見つけ出す。 ・用紙にまとめ発表する。  4, けがき線通りに切断するためのポイントを確認する。 ・全員で声に出して確認する。  5, のこぎり引きの練習を行う。 ・時間が来るまで何度も繰り返し練習	正しいのこぎり引きの様子と、失敗例のVTRを準備し、考える際の手がかりとさせる。 どこに注目すればよいか視点を示す。  プリントにまとめ、声に出して読むことでより深い理解を図る。  ペアで協力して作業する。 お互いにのこぎり引	<b>【生活を工夫し創造する能力】</b> A 正しいのこぎり引きの方法について、全てのポイントに気づき発表できる。 B いくつかのポイントに気づき、発表できる。 (活動状況の観察)	音読   反復ドリル

35分	する。	<p>きのポイントに沿って作業できているか指摘し合う。          繰り返し練習させることで技能を確実に定着させる。          教科書、ハンドブックで確認させる。          安全には十分注意させる。          (のぎりの進行方向に身体を置かないなど)</p>	<p>【生活の技能】</p> <p>A ポイントを踏まえて正確にのぎり引きを行うことができる。          B ポイントを踏まえてのぎり引きを行うことができる。          (活動状況の観察)</p> <p>【知識・理解】</p> <p>A 全てのポイントを説明できる。          B 力の入れ方、姿勢について説明できる。          (活動状況の観察)</p>	
<p>終結</p> <p>10分</p>	<p>6 , 後かたづけ</p> <p>7 , 次時の確認</p> <p>8 , あいさつ</p>	<p>用具の始末、部屋の清掃をしっかりと行わせる。          次回からは材料取りを行う。</p>		